

百歳おめでとう！いびつごます

4月のお誕生日で百歳を迎えられた椋代恵子さん（真加部）と矢内満壽子さん（円宗寺）に、山崎町長がそれぞれ記念品を贈呈しました。椋代さんは旧久米町でお生まれになり、高等女学校卒業後22歳で結婚後は、静岡県の海軍で働くご主人と一緒に静岡県で生活をスタートされました。ご主人は鼻が悪く飛行機に乗ることができなかったため、昭和19年に海軍整備士として広島県呉より出港の軍艦に乗り、戦死されたそうです。子どもと2人残され、今後の生活に不安を抱いていたところ、ご主人の実家両親が温かく迎え入れてくれ、姑さんが亡くなる前には「私が守ってやるからな」と言葉を残してくれたこともあり、今でも朝夕20分のお祈りを欠かしたことがないそうです。ご長寿の秘訣を尋ねると「朝夕のお祈り」と即答されました。また、「何でも好き嫌いをなく食べ、人中に出ることも楽しい。ひ孫が学校を卒業するまで長生きしたい。」とお話してくださいました。

矢内さんは津山市でお生まれになり、津山女子商業学校卒業。そろばんを得意とされていました。夫婦共働きの先駆けで、満壽子さんは子育てが落ち着いてから農協に勤務され家計を支えられました。勤務地が遠くなったことを理由に50歳前後で自動車免許を取得され、軽自動車通勤もされていたそうです。退職後も80歳過ぎまで原付バイク、90歳過ぎまでは自転車や愛育委員活動、お寺の婦人会活動など活発に動かれていました。また昭和62年には自叙伝『ほほえみ（全262ページ）』を自費出版され、65年間の歩みを執筆されています。93歳からはデイサービスに参加されるようになり、今は週3回のデイサービスを何より楽しみにされています。「百歳まで大病もせず、自分のよきな幸せ者はおらん。」と笑顔でお話ししてくださいました。



矢内 満壽子さん



椋代 恵子さん

「人権の花」運動 贈呈式

今年度、奥津小学校と富小学校が「人権の花」運動の指定校になり、4月27日(火)、それぞれの小学校において贈呈式が行われました。今後は、それぞれの小学校で児童が種をまき、花の世話や成長の様子を観察を通して、情操教育に役立てます。また、「人権の花」から採取した種を、地域の人たちに配るなどして「人権の輪」を広げていきます。



「人権の花」運動について

「人権の花」運動は、児童が「人権の花」を栽培することにより、命の大切さ、お互いの立場を考え協力し合うことを理解し、思いやりの心を育てていくことを目的として、昭和57年から実施しています。

津山地域人権啓発ネットワーク協議会※1においても、毎年「人権の花」運動を実施しています。

近年「命の重さ・尊厳」を痛感させる事件・出来事が多く発生しており、当ネットワーク協議会においても、「人権の花」運動を通じて、子どもたちが花を育てることにより、命の大切さを実感し、思いやりのある人間に育っていただきたいと考えています。

※1 津山地域人権啓発活動ネットワーク協議会の構成員
岡山地方方法務局津山支局、津山市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町、津山人権擁護委員協議会